

# 新型肺炎コロナウィルス問題、被災者支援、防災体制の整備など 県民のいのち・くらし守るために全力



## 日本共産党の小池晃党書記局長（参議院議員）

## 県議団等が達増知事と懇談

2月17日、日本共産党の小池晃参議院議員（党書記局長）と

岩淵友参議院議員、ふなやま由美（衆院比例東北ブロック予定候補）は、千田美津子・斎藤信・

高田一郎の3名の日本共産党県議団と共に、達増拓也岩手県知事を表敬訪問し懇談し、翌日は陸前高田市の戸羽太市長と

（写真は裏面）、復興の課題等について懇談しました。

小池書記局長は、知事に対し「4選おめでとうございます。共産党は、復興と党から県政と党になって全面的に支援した。医療・介護保険利用料の免除継続の実施等、先進的な取組を進めて頂いており、幸福追求権をさらに進めてほしい」と激励。

達増知事は、「県民党的に広がった中で勝利できた。復興は着実に進んでいるが、被災者の心のケア、子どもの心のケアが一層重要となってくる。節目の時だからこそ、被災者に寄り添っていききたい。」と述べました。



岩手県庁で達増知事と懇談する小池書記局長（左側中央）岩淵友参議院議員等

### コロナ対策で知事要望

学校の一律休校措置の見直し  
県民生活を防衛する  
対策の実施を要望



3月18日達増知事に新型コロナ問題で申し入れを行う日本共産党県委員会と共産党県議団

3月18日、日本共産党岩手県委員会と県議団は、「新型コロナウイルス感染症防止対策の徹底と県民生活防衛、中小企業への強力な支援」の実施を求める申し入れを達増知事に対し緊急に行いました。申し入れは、①感染防止対策の徹底②科学的根拠のない学校の全国一律休校措置の見直し、子どもの安全と人権を守ること③新型コロナの影響から県民生活を防衛する対策④県の独自施策を含めた補正予算の2月県議会への提案などです。

これに対し、達増知事は、「県民のくらしや仕事の現場が大変な状況にあることをまとめて頂いた。この内容を参考に対応したい」と述べました。

### 温室効果ガス削減

（千田議員）気候危機に対する警告が国連本部のグレタス事務総長と地球最後の日まで「残り100秒」とする終末時計が相次いで出され、さらに国連が13年度比26%減を上積みする報告を世界各国に求めたのに対し、日本政府は上積みしないと決めたとの報道に驚きと怒りが湧いてきます。

この様な中で、知事は本県の温室効果ガス排出量を「2050年までにゼロをめざす」と表明されたが、どう達成していくお考えか。

（達増知事）2030年度を目

標とする次期「岩手県地球温暖化対策実行計画」の策定にあたっては、温室効果ガス排出量の2050年実質ゼロを見据え、積極的な目標と実効性ある施策を検討するとともに、全県的な団体・機関で組織する「温暖化防止いわて県民会議」を中心に住宅の省エネルギー化の普及啓発や事業所における省エネルギー設備の導入、エコドライブの推進など具体的な行動に取り組む県民運動を展開し、県民総参加による地球温暖化対策を推進します。

### 洪水・土砂災害対策

千田議員は、予算の確保と早期整備を求めました。



台風19号災害で被災した本県山田町の被害現場。東日本大震災で被災したばかりの家も何軒か。今回は山津波の被害に。

### 2020年度予算

県民の命を守るため  
土砂災害警戒区域の  
指定を早め、危険個  
所の整備を早めよ！

千田議員は、多発する豪

雨災害等から、県民の命を守る

ため、洪水・土砂災害対策の強

化と土砂災害警戒区域等の指

定を早め、土砂災害危険個所の

整備を早めるべきだと質問。担

当課長は、「土石流による被害

を防止する上で重要な砂防堰

堤は、現在までに210箇所、

整備率は9.5%であること。

さらに「土砂災害警戒区域の指

定は52%、土砂災害危険個

所の整備率は12.8%であ

り、土砂災害警戒区域の指定の

ために必要な基礎調査結果の

公表を今年度末までに終了す

る予定だ」と述べました。

千田議員は、予算の確保と早

期整備を求めました。

耐用年数19年の信号制御機は21.8%が耐用年数超

耐用年数42年のコンクリート製の信号柱は32.9%が老朽化している！！

### 交通安全 施設整備

子どもたちの安全のため  
にも、老朽化した信号機  
は更新すべき！



姉小付近の信号機は耐用年数超で新年度更新決定

千田議員は、警察本部の予算審査において、全国的にも問題となっている「老朽化した信号機」の実態について質問。小田島交通部長は「更新基準を超えた信号について、信号制御機は1880基、うち耐用年数の19年を超えたものが409基で全体の21.8%を占めている。コンクリート製信号機は305本、うち耐用年数の42年を超えたものが1087本で全体の32.9%となっている。」と答えました。千田議員は、ここ3年間の更新数が信号制御機で約69基、信号柱で約19本しか整備されておらず、このペースで更新が行われれば、信号柱の更新が後50年も掛かり、倒壊等で子どもたちや歩行者が危険であり、前倒しで更新すべきと強く指摘しました。